

講義録レポート

講義録コード

02-22-3-101- 08

講座	公認会計士	科目①	入門Ⅰ
目標年	2022年合格目標	科目②	財務会計論
コース	入門・基礎期	回数	8 回
		通算回数	10 回
用途	ビデオブース ・ 集合DVD WEB通信 ・ DVD通信 ・ 資料通信 ・ DL通信		

収録日	2020年 4月 21日			
講師名	小野 友輔 講師	内 訳	板書 枚数	7 枚 ※レポート 含まず
			補助レジュメ 枚数	枚
			その他	枚

講義構成	前半 41分 → 中盤 52分 → 後半 54分		
実施テスト	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無		
対応テスト	<ミニテスト>	(ミニテスト) 第 7 回	
	<答練・演習>	() 第 回	
使用教材	3級合格テキスト Ver11.0		
配布教材			講義録添付 (有・無)
			講義録添付 (有・無)
			講義録添付 (有・無)
備考			

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

TAC公認会計士講座

～memo～

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

TAC W セミナー

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8

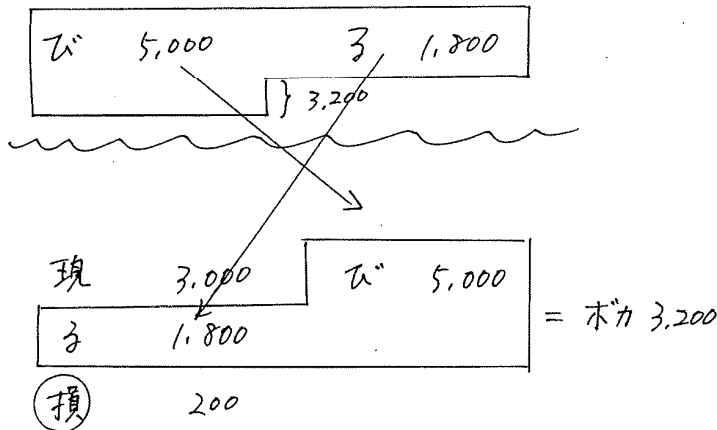
配布物	★テスト類 : []	講師	小野先生
	★その他の配布物1 : []		
	★その他の配布物2 : []		

黒板内容

$$\overset{3,000}{\text{売却価額}} - \overset{3,200}{\text{帳簿価額}} = \begin{cases} \oplus \text{売却益} \\ \ominus \text{売却損} \end{cases}$$

△ 200

2. ~ 仕訳 (期首売却)



公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8
-------	-----	--------	------	----	-----------	----	---

配布物	★テスト類 : []	講師	小野 先生
	★その他の配布物 1 : []		
	★その他の配布物 2 : []		

黒板内容

累計

x1 4/1	x2 3/31	x3 3/31	x4 3/31	x4 6/30	人
200,000		400,000	600,000		

車	1,000,000	子	600,000	= 木カ 400,000
---	-----------	---	---------	--------------

6/30

DP	50,000	子	50,000	(3ヶ月分)
未収	300,000	車	1,000,000	= 木カ 350,000
子	650,000			
損	50,000			

DP	50,000	子	50,000
未収	300,000	車	1,000,000
子	650,000		
損	50,000		

未	300,000	車	1,000,000	= 木カ
子	600,000			350,000
DP	50,000			
損	50,000			

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8
-------	-----	--------	------	----	-----------	----	---

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

借り代
借り賃
継続的 後務 // サービス 提供契約

前払 (前受) ~~費用~~
後払 (後受) ~~収益~~

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8
--------------	------------	--------	------	----	-----------	----	---

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒板内容

Top Scenario (120 units):

- Timeline: x1 (9/1), x2 (3/31), x2 (8/31), x3 (3/31), x3 (8/31)
- Initial flow: 120 (from x1 to x2)
- Change: Δ50 (at x2)
- Final flow: 120 (from x3 to x2)
- Change: Δ50 (at x2)
- Accounting: 保 120 / 現 120 → 前 50 / 保 50 → 保 50 / 前 50 → 保 120 / 現 120 → 前 50 / 保 50

Bottom Scenario (70 units):

- Timeline: x1 (9/1), x2 (3/31), x2 (8/31), x3 (3/31)
- Initial flow: 70 (from x1 to x2)
- Change: Δ70 (at x2)
- Final flow: 120 (from x3 to x2)
- Change: 70 (at x2)
- Accounting: 支家 70 / 未 70 → 未 70 / 支家 70 → 支家 120 / 現 120 → 支家 70 / 未 70

公認会計士	講義録	コース講義等	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8
-------	-----	--------	------	----	-----------	----	---

配布物	★テスト類 :	[]	講師	小野先生
	★その他の配布物 1 :	[]		
	★その他の配布物 2 :	[]		

黒板内容

06

支家

8/31 ②	4/1 ① 90
120	} 前TB 50
3/31 ③ 90	

} PL 120

P.40 { *	前私	費用	}	}	}	}	資産
	前受						収益
P.110 { *	未収	収益	}	}	}	}	負債
	未私						費用

PL

--	--

4,500

BS

--	--

4,500

公認会計士	講義録	入門 I	科目	財務会計論(計算)	回数	8
-------	-----	------	----	-----------	----	---

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

後TB

<p>資産 43,250</p>	<p>負債 18,250 純資産 20,500</p>
<p>費用 21,500</p>	<p>収益 26,000</p>
<p><u>64,750</u></p>	<p><u>64,750</u></p>

貸引、累計金む →

— P/L
— B/S
↓
当期純利益
4,500

$\text{B/S } 20,500 \xrightarrow{+26,000 \text{ (P/L)}} \text{B/S } 25,000 \xrightarrow{\Delta 21,500} \dots$

財務会計論入門 I

ミニテスト第7回 問題

(第8回目実施)

[解答時間：15分]

下記の1.～10.について、仕訳を示しなさい。なお、当社は三分法により商品売上の記帳を行っており、仕入勘定で売上原価を算定している。また、当期は×5年3月31日を決算日とする1年間である。

1. 期首商品 100千円に関する決算整理仕訳を行う。
2. 期末商品 200千円に関する決算整理仕訳を行う。
3. 当期にA A社に対して商品を 300千円で掛販売した。
4. 上記3.のA A社が倒産し、300千円が貸倒れとなった。
5. 前期に掛販売した得意先であるB B社が倒産し、400千円が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金残高が450千円ある。
6. 前期に貸倒れとして処理していたC C社に対する売掛金 500千円を、現金で回収した。
7. 決算にあたり、売掛金残高28,000千円に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前における貸倒引当金勘定残高は上記の問題文から推定すること。
8. ×4年4月1日に、備品を9,000千円で現金により購入した。
9. 決算において、上記8.における備品の減価償却費1年分を計上する。なお、耐用年数は5年、残存価額はゼロであり、定額法により計算し、間接法で処理する。
10. 仮に上記8.の備品を×4年12月1日に購入していた場合の決算整理仕訳を行う。なお、耐用年数は5年、残存価額はゼロであり、定額法により計算し、間接法で処理する。

財務会計論入門 I
ミニテスト 第7回
解答用紙

得点	会員番号								
	氏名								
	受講クラスNo.		講師名						

(単位：千円)

	仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

財務会計論入門 I

ミニテスト第7回 解答

(第8回目実施)

[解答時間：15分]

下記の1.～10.について、仕訳を示しなさい。なお、当社は三分法により商品売買の記帳を行っており、仕入勘定で売上原価を算定している。また、当期は×5年3月31日を決算日とする1年間である。

1. 期首商品 100千円に関する決算整理仕訳を行う。
2. 期末商品 200千円に関する決算整理仕訳を行う。
3. 当期にA A社に対して商品を 300千円で掛販売した。
4. 上記3.のA A社が倒産し、300千円が貸倒れとなった。
5. 前期に掛販売した得意先であるB B社が倒産し、400千円が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金残高が450千円ある。
6. 前期に貸倒れとして処理していたC C社に対する売掛金 500千円を、現金で回収した。
7. 決算にあたり、売掛金残高28,000千円に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前における貸倒引当金勘定残高は上記の問題文から推定すること。
8. ×4年4月1日に、備品を9,000千円で現金により購入した。
9. 決算において、上記8.における備品の減価償却費1年分を計上する。なお、耐用年数は5年、残存価額はゼロであり、定額法により計算し、間接法で処理する。
10. 仮に上記8.の備品を×4年12月1日に購入していた場合の決算整理仕訳を行う。なお、耐用年数は5年、残存価額はゼロであり、定額法により計算し、間接法で処理する。

【解 答】 (単 位 : 千 円) 10 点 × 10 箇 所 = 100 点

	仕 訳			
	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1	仕 入	100	繰 越 商 品	100
2	繰 越 商 品	200	仕 入	200
3	売 掛 金	300	売 上	300
4	貸 倒 損 失	300	売 掛 金	300
5	貸 倒 引 当 金	400	売 掛 金	400
6	現 金	500	償 却 債 権 取 立 益	500
7	貸 倒 引 当 金 繰 入	510	貸 倒 引 当 金	510
8	備 品	9,000	現 金	9,000
9	減 価 償 却 費	1,800	減 価 償 却 累 計 額	1,800
10	減 価 償 却 費	600	減 価 償 却 累 計 額	600

(注) 9 . 及 び 10 . の 「 減 価 償 却 費 」 「 減 価 償 却 累 計 額 」 は , 「 備 品 減 価 償 却 費 」 「 備 品 減 価 償 却 累 計 額 」 で も よ い。

【解答時間及び得点】

	日付	解答時間	得点	M E M O
1回目	/	分	点	
2回目	/	分	点	
3回目	/	分	点	
4回目	/	分	点	

【チェック・ポイント】

出題分野	出題論点	間違えた論点に×を付すこと				M E M O
		1回目	2回目	3回目	4回目	
決算整理(Ⅲ)	売上原価					
決算整理(Ⅳ)	貸倒れ					
決算整理(Ⅴ)	減価償却					

【解答への道】 (単位: 千円)

1. 期首商品

(借) 仕入	100	(貸) 繰越商品	100
--------	-----	----------	-----

2. 期末商品

(借) 繰越商品	200	(貸) 仕入	200
----------	-----	--------	-----

3. 掛販売

(借) 売掛金	300	(貸) 売上	300
---------	-----	--------	-----

4. 貸倒れ (当期発生債権)

(借) 貸倒損失	300	(貸) 売掛金	300
----------	-----	---------	-----

(注) 当期発生債権が貸倒れた場合には、貸倒引当金を取り崩さず、全額を貸倒損失として処理する。

5. 貸倒れ (前期以前発生債権)

(借) 貸倒引当金	400	(貸) 売掛金	400
-----------	-----	---------	-----

(注) 前期以前発生債権が貸倒れた場合には、貸倒引当金を取り崩す。

6. 前期以前貸倒債権の当期回収

(借) 現金	500	(貸) 償却債権取立益	500
--------	-----	-------------	-----

7. 貸倒引当金の設定 (差額補充法)

(借) 貸倒引当金繰入	510(*1)	(貸) 貸倒引当金	510
-------------	---------	-----------	-----

(*1) $28,000 \times 2\% - \text{前T/B 貸倒引当金} 50 (*2) = 510$

(*2) $450 - \text{B B社に対する売掛金} 400 = 50$

8. 備品の取得

(借) 備品	9,000	(貸) 現金	9,000
--------	-------	--------	-------

9. 減価償却

(借) 減価償却費	1,800(*3)	(貸) 減価償却累計額	1,800
-----------	-----------	-------------	-------

(*3) $9,000 \div 5 \text{年} = 1,800$

(注) 備品減価償却累計額など、資産名を前につける場合もある。

10. 減価償却

(借) 減価償却費	600(*4)	(貸) 減価償却累計額	600
-----------	---------	-------------	-----

(*4) $1,800 (*3) \times \frac{4 \text{ヶ月} (\times 4.12 \sim \times 5.3)}{12 \text{ヶ月}} = 600$

(注) 会計期間の途中で購入し、使用を開始した場合には、原則として月割計算を行う。